

総括質問

6月定例会では6月11日から16日までの間、14人の議員が総括質問を行い、活発な議論が展開されました。
(質問者の文責により、質問と答弁の要旨を掲載しています。)

平塚クラブ

野崎 審也 議員

経済の危機対策は意識改革と組織力

問 100年に一度といわれる大不況の中、全職員一丸となって危機意識を共有し、経営の視点でこの難局を乗り切る組織力が必要と考えるがどうか。

市長 組織力は非常に重要で、市長としてリーダーシップを発揮すべき責務は十分認識している。職員の意識改革を図り、世界の動き、経済の流れの中で各人がレベルアップするための努力をしなければならない。また重要な諸課題に対しては、所管する部署をはじめ関係部署間との連携を一層図り、経済対策を行っている。

問 新たな工業活性化策の策定について伺いたい。

市長 17年度から施設整備助成と新規雇用助成からなる工業活性化促進方を制度化している。さらに対象業種の拡大や補助限度額の拡大等を検討し、既存工場等の設備投資にかかる経費の助成、太陽光発電等の環境配慮設備の導入にかかる経費の助成などを検討し22年度に新たな制度としてスタートさせたい。

公民館のバリアフリー

問 公民館のバリアフリー化について伺いたい。

学校教育部長 平塚市公共建築物耐震化計画に基づき、22年度以降に耐震診断等を行い、その結果を踏まえたうえで耐震補強工事や改築工事など方向性を判断し、あわせてバリアフリー化の実現を図りたい。なお、手すりの設置や和式トイレの改修などは、個々の公民館の実情で取り組んでいる。

街路樹は道路の附属物か、生き物か

問 街路樹は道路法では道路の附属物となっているが、本市の地球温暖化対策における街路樹の効果や機能をもとに考えているのか。

副市長 地球温暖化対策として街路樹は二酸化炭素の吸収源となるだけでなく、ヒートアイランド現象の緩和にも有効と考える。また街路樹のせんていについては、樹木に対し一つの生き物として向き合う姿勢を持って施工するよう業者等に対しては指導している。

問 維持管理において地域住民との清掃等の協働の進め方について伺いたい。

副市長 協働事業として道

路沿いの緑化の推進のため道路残地を利用し、草花の提供を市が、除草や清掃などの通常管理を市民が行う「花のふれあいスポット事業」を推進している。今後は、市民との協働によるせんていについてのカルテづくりを進めながら、地域住民との共同管理の仕組みづくりについて研究していく。

駅西口南側エレベーター設置

問 23年度エレベーター設置の実現に向けて駅構内のバリアフリー化も含め、今までの経緯と今後の推進計画を伺いたい。

副市長 平成20年8月に本市とJR東日本との間で、平塚駅西口跨線橋南側および改札内のバリアフリー化について、23年度以降に最優先に整備することで合意が得られている。今後は、施工内容や費用負担について協定を締結した後、設計・施工をJRに委託し事業を推進していく。

ベルマールの支援策

問 本市の財産である湘南ベルマールが今季、Jリーグへ復帰する絶好の機会であるため平塚競技場の大型の改修をする時期にきていないのか伺う。

副市長 平塚競技場は22年経過し修繕等必要であるが、

サッカーだけでなく陸上競技での使用も勘案し観客や利用者の安全面の必要性の高いものから整備したい。また大型映像装置は、設置の検討を進めていかなければならないと考える。

黒部丘のパチンコ店出店計画

問 市長は、反対の署名に託された多くの市民の声の重みをどのように感じ、どのような判断をお持ちか。

副市長 出店計画地は用途地域が準工業地域で、法的に立地可能な場所として事業者が事業の計画をしたものであり、都市計画法では、開発事業計画が法の規定に適合していればこれを許可しなければならないと規定されている。開発許可権者としては、法令に基づき適切に判断する。

伊藤 裕 議員

10のまちの未来予想自治社会の構築を

問 世界最大の自動車会社であるGMが、連邦破産法11条の適用を受けて経営破たんした。世界中が不況からの脱出のために、財政出動を迅速かつ前倒ししてまで実施している時に、このまちの21年度予算は節約に努めた財政となっている。このような時代であるから

学校単位での地域自治も進んでいくのか伺う。

市長 制度や仕組みは作ればいいというものではないことは、百も承知である。その制度をいかにうまく活用していくか、活用しやすい環境をどう作り上げていくかということが、まさに行政の役割で、それを今度

は市民一人一人が自治とは何か、自分は何をすべきか、地域や団体としてどう行動すれば自治社会につながるのかということについて、議論を深めていくことがまだ足りていない。その中核を担うのが平塚市の場合でいえば、公民館を核とした自治会であると思っている。地域の課題の掘り起こしを公民館単位で、つまり小学校区単位でやっていただきたい。

市民部長 増大し多様化する地域課題に対応するためには、市民自らが主体的に自治にかかわり、新しい自治を担っていく時代が到来し、市として全域で対応すべきものを除き、各地域がそれぞれの実情に合ったまちづくりを、地域に住む人々の考えのもとで行えるような仕組みが必要となっており、今、さまざまな取り組みをしているところである。

岩田 耕平 議員

危機を乗り越え挑戦

問 世界的な経済危機の影響により、平塚の中小企業の経営状況は非常に厳しいものとなっている。「平塚

産業活性化ビジョン」により、どう各産業の振興に取り組んでいくのか。

経済部長 厳しい環境が一瞬も早く改善するよう、市は支援する。この危機を乗り越え新たな挑戦を進める中で、観光を一つの産業として位置付け、農工商、水産業、観光を軸とし、それ

ぞれが連携して新産業の創出も含めて、活力のある産業の持続的な発展を目指したい。

問 新産業を創出するための連携策は何か。

経済部長 東海大学・神奈川大学の学生による駅前大学まつりなどを行っている。また商工会議所の青年部と大学生が連携し、食を中心とした、街づくりの発表をしてきた。市も一緒に連携したい。

問 総合交通計画はどのような進捗状況か。

まちづくり政策部長 公共交通網、自転車利用環境、中心市街地の交通の方針などの検討を進めていく。

問 駅前駐輪場計画について聞きたい。

まちづくり政策部長 自転

車駐車場整備の方向性のたたき台を作成した。まず駅周辺の駐輪場計画を構築し、総合的な自転車施策を進めていきたい。

市民部長 庁内で意見統一し、市民、議会、関係団体の意見を伺う予定である。

問 海の活性化について伺う。

経済部長 海岸地域は、海と川を生かした総合的なレクリエーションゾーンとするよう位置付けられている。新港の基盤整備についてはこの位置付けを踏まえ漁業や海業の展開に必要な施設や機能整備をしていきたい。

問 観光協会と一体となった施策はどうか。

経済部長 商工農漁業と連携した体験観光や、近隣市と連携した広域観光を検討している。「浜田川桜まつり」や、「湘南よさこいまつり」に名産品の販売等、物販を導入することで、産業との連携が図られるものと考えている。本市の産業分野の課題については、改訂する産業活性化ビジョンで、解決に向けた取り組みを検討していく考えである。

議会の豆知識

【市議会と市長の関係】

市長は、市政運営の方針を政策として具体的に予算化し、また条例を制定するために議会へ議案を提出します。

議会は議案の提案説明を聞き、十分に審査したのち、最終決定(議決)します。市長は議会で決定した意思に基づいて実際の仕事を行います。

このようなことから、議会は意思決定機関(または議決機関)、市長は執行機関と呼ばれています。両者は対等の立場に立ち、互いにけん制しながら、ちょうど車の両輪のように市政の発展のために活動しています。